

パネルディスカッション

コーディネーター

猪井 博登氏 大阪大学大学院工学研究科 助教

パネリスト

三星 昭宏氏 関西福祉科学大学客員教授 近畿大学名誉教授

山本 重信氏 美原区公共交通を考える懇話会 会長(美原区自治連合協議会 会長)

今村 光伸氏 近鉄バス株式会社 乗合営業課 係長

河村 康明氏 南海バス株式会社 企画課 課長代理

平松 美孝氏 建築都市局 交通部 部長

【現在の美原区の状況について】

・三星

いつか運転が出来なくなった際に公共交通も無いとお手上げになってしまいます。こういった問題も含めて、まちづくりというものを考え直す必要があります。提案したい事は、町内の自治会の元に専門部会を作りませんかという事です。専門部会を作ると、交通の問題も、自分の町の事として、近鉄バスや南海バスの利用率等を吟味できます。また、要支援の方々の移動支援について、金銭的支援を打ち切り、そのお金をそのまま自治体にお渡しして、「市民助け合い」の援助をするという仕組みに切り替え、市民助け合いのまちづくり委員会を作り、その中で交通問題を取り上げましょう。

・山本

合併の際に、我々の生活に欠かせない移動手段として美原に新たに4本のバス路線が出来ました。未だに区民の方からは頻りに利用者の少なさについてご指摘をいただきますが、これから高齢化が進み、車にも自転車にも乗ることの出来ない方が増えてくるとますますバスの重要性は高まってきます。

そこで我々自治連合協議会も22年度にバスの利用促進に取り組み、翌23年度には行政と一緒にになって今の美原区の公共交通を考える懇話会を設けさせていただき、現在でも利用促進に取り組んでいます。

・平松

堺市の交通の動向ということで、堺市の公共交通の現状について説明します。

鉄道とバスでどこまでのエリアをカバーできているのかという話ですが、全市の公共交通の人口カバー率は97%です。美原区の自動車の利用率は、平日で48.4%、休日で66.9%と、自動車の分担率が高いことがわかります。美原区と堺市のその他の区の移動では、平成13年が13.8%であったものが、平成22年になると18.3%に伸びており、9年間で4.5%アップしています。美原地域のバスが便利になった事でここまで変化が起きているという事です。

・今村

美原区における近鉄バスの近況については、年々利用者が減ってきています。最近出来た北野田方面については、比較的新しい路線なので利用者数は少し伸びていますが、全体で見ると減少傾向ですので、経営的には少々厳しくなっています。

・河村

南海バスは美原区においてあまり知名度は高くありません。美原区内を走行する南海バスは美原区域路線バス、広域路線バスがあります。利用者が着実に増えていますが、収支率が44%という事で、少なくともこの収支率が下がってくると話にならなくなります。

・猪井

5者様々で、大学の先生に地元の自治連合協議会会長、市、そしてバス事業者さんの5人4者で、現在の美原区の状況についてお話いただきました。

懇話会が出来たので取り組みを継続的に行っているという事、バス路線の現状についてお話をいただ

きました。その中でもバス会社さんは様々な取り組みをされているということ、また市としても、広域のバス路線に関しては利用者が増えているということなので、ある一定の効果は見られるという事でした。最後に、そのようなことを検討するにも自治会の力が大事だという事、それを検討していくには交通とまちづくりを一緒にして、まちづくりをすることによって還元されることもあるだろうというお話をいただきました。このような事が今の美原区の現状であります。

【今後の美原区について】

・三星

堺市のようにこれだけ公共交通が整備されている所は全国的に見ても少ないのですから、折角の市の援助に市民の皆様が応えて限界まで使っていただけたら、公共交通はもっと発展すると思います。

福祉タクシーに関して、堺市は非常によく頑張っておられますが、縦割りを廃してさらに利用促進をやっていただきたいです。さらに道路交通に関して、何十年の都市計画の中で、自転車・徒歩も含めた公共交通を大事にする道路計画を推進していただきたいです。

・山本

懇話会の取り組みについて、23年度は「美原区バス利用促進を考えるワークショップ」を4回開催させていただきました。ワークショップでは校区别のバスマップを作成し、美原区のバス利用促進策等もご提案いただきました。24年度にはバスマップを検証するためにワークショップ参加者の皆さんを中心にバススタンプラリーを実施しました。そして25年度には、美原区内の企業に美原区の路線バスに対する取り組みを知って頂き、自動車通勤から公共交通での通勤への転換など、バス利用促進に協力していただけるかについてアンケートやヒアリングを行いました。26年度には、美原区にある4路線の中でも乗車率の低い路線に関係のある地区を訪問させていただきました。美原区の路線バスの必要性をご理解いただき、利用のお願いにあがっています。今後も危機感を持ってバス利用促進に取り組んでいきたいと思っています。

・平松

おでかけ応援制度について、この制度の目的は公共交通の利用促進と共に、高齢者の社会参加の促進ということで、満65歳以上の堺市民の皆様が南海バス、近鉄バス、阪堺電車に1乗車100円で利用できる制度です。乗り場か降り場の少なくともどちらか一方が堺市内であれば、たとえ移動先が市外までまたがったとしても100円でご利用いただけます。今年の11月から土日祝も対象になるという事で、どんどん利用可能日を増やしています。

続きまして、堺市の乗合タクシーについて、この制度は、鉄道駅やバス停などから離れた場所にお住まいの方が買い物などの際に使っていただく移動手段として、予約制にはなるのですが、予約を入れて頂き、タクシーが乗合タクシー停留所へお迎えに行くという制度です。まだ実験中ということで本格的な実施までには1年ほど時間がかかりますが、試験期間中に皆様から沢山の声をいただき、よりよい制度にしていきたいと思っています。

・今村

近鉄バスも平成27年4月のICカード導入を目指して準備しています。また、ICカード利用での割引や、小学生の方を対象にした割引サービスも行います。その他にも小学校の社会見学等、諸々の取り組みを行っています。

・河村

モータリゼーションの影響もありましてバス利用者の数というのは昭和40年代をピークに、段々と減少の一途を辿っています。レコードによると、現在の利用者はピーク時の約4割と言われる状況であり、当然大半のバス事業者に関しても同じ事が言えます。高齢化に伴い、生産人口の減少という事もよく言われ、関西や大阪などでも同様で、南海バスでも利用者が減少し、大変厳しい状況にあります。しかし、こんな状況だからこそ、南海バスでは「仕方ないから」ではなく「楽しんで」乗っていただける

ようなバスを目指しています。わかりやすく言うと、ファンになっていただきたいと思っています。

これは皆様方へのメッセージなのですが、バスが欲しいと言って結局乗らなくなって潰れてしまったバスも多くあります。こういった取り組みを無駄にしないためにも、皆様方には是非バスに乗っていただきたいと思っています。地域の皆様一人一人が自分の仕事だと思ってバスに乗っていただきたいと思っています。私たちバス会社といたしましても、南海バスを身近に感じていただけるように出来るアプローチをかけていきますので、一緒にこの南海バスを育てていただきたいなと感じています。

• 猪井

全体の話のまとめをさせていただきますと、それぞれの主体でそれぞれの取り組みが行われているという印象です。この場の方々にバスに乗っていただくだけでは物事は解決いたしません。美原区4万人の皆様で協力していかなければいけない問題だと思っています。そのような意味では、本日若いお父さん、お母さんにお話を聞いていただけた事には大きな意義があると思います。普段若い方にお話を聞いていただける機会がなかなかありませんので、是非本日お話を聞いて下さった皆様にはご家族やお友達などに、バスの良さや、「こんな話を聞いてきたよ」等と伝えていただきたいと思います。それが、これからの美原区を変えていく事に繋がるのではないかと感じています。